

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律が美容業・美容師とどう関わるのか、具体的事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることを意識し、社会に出た際に直面する問題にも対応できるように学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	(1) 法制度の概要・法とは何か (2) 美容師免許の取得方法 【到達目標】 法律とは何かを説明できる。美容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。美容師免許を取得するまでの過程を説明できる				
2	(1) 用語の定義 (2) 美容師免許制度 【到達目標】 法律上「美容」や「美容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。美容師免許の取得後の扱いについて説明できる				
3	(1) 美容師の守るべき義務 (2) 美容師に対する行政処分 (3) 管理美容師 【到達目標】 美容師の負う義務について知るとともに、どのような違反をするとどのような処分があるのかを理解する。管理美容師の仕事内容・資格の取得方法など管理美容師の全てを体系的に把握できる				
4	(1) 美容所の開設 (2) 立入検査 【到達目標】 美容所の解説の流れを説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明できる				
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 美容所以外の業務 【到達目標】 解説者が負う義務とそれに対する処分を理解する。美容所以外で美容業ができる場合を説明できる				
6	(1) 行政処分・罰則 (2) 行政機関・保健所・衛生行政 【到達目標】 誰がどのような違反をすると、どの処分・罰則が出されるか、正確に答えることができる。保健所が行政機関としてどのように美容所に関わっているかを説明できる				
7	総合演習 来年度に向けて今まで学んだ項目の最終確認を行い、曖昧な知識を確実なものとする。				
到達目標	美容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているかを説明できる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書(関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター) 毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイル(フラットファイル)を用意すること。第一回目の授業で詳細をお伝えする。				

学科	美容科	担当教員	高橋		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	美容師として公衆衛生の維持向上の必要性を学び、環境や自然が人々の健康に及ぼす影響を考察する。地球の自然環境を守り、生活習慣を適正化する知識を広める。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	〔公衆衛生 第1章 第1・2節〕 公衆衛生の意義・発展の歴史 【到達目標】 公衆衛生の歴史及び業績のある人物について学び、公衆衛生の必要性を説明することができる				
3・4	〔公衆衛生 第1章 第3・4節〕 美容師と公衆衛生・保健所 【到達目標】 美容師と公衆衛生の歩みを理解し、様々な地域で現在抱えている問題を提議できる。日本の保健所の役割を理解し、多岐にわたる事業内容を説明できる				
5・6	〔公衆衛生 第2章 第1節〕 保健 【到達目標】 様々な統計を読み取り、我が国の抱えている問題を見つけることができる。健康づくりの為に創設された、母子保健・生活習慣病・高齢者保健について説明できる				
7	〔公衆衛生 第2章 第2節〕 保健 【到達目標】 各種保険・介護福祉サービス・精神保健福祉について、説明できる				
8	【確認テスト】 公衆衛生の知識を問題形式で復習し、理解の不足している所を見つけだす			確認テスト	
9・10	〔環境衛生 第1章 第1節〕 概要・目的・意義 〔環境衛生 第1章 第2・3節〕 空気環境・衣服・住居の衛生 【到達目標】 空気成分や有害物質、照明や冷暖房について学び、日常生活に役立てられる				
11・12	〔環境衛生 第1章 第5・6節〕 上下水道と衛生害虫・水質汚濁 【到達目標】 浄水の仕組み、害虫、水質等の環境保全について説明できる				
13	【確認テスト】 環境衛生の知識を問題形式で復習し、身につけているかを確認し、解説により総復習する			確認テスト	
14	【確認テスト】 公衆衛生・環境衛生の全範囲を国家試験の出題傾向をもとに、身につけているかを確認し、解説により総復習する			確認テスト	
到達目標	公衆衛生と環境衛生についての必要性和美容師に求められる責任を理解し、公衆衛生の維持向上を実践できるようになる。				
評価方法	①授業への取り組み方 10% ②小テスト 10% ③前期・後期の学科試験 80% なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「衛生管理」、配布プリント				

学科	美容科	担当教員	高橋		
科目名	衛生管理(感染症)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	微生物の構造を学び、感染症発生の要因に関する知識を身につける。また、感染症の分類や予防に関して、また各感染症の特徴を覚え、法律に規定された必要項目を理解した上でお客様に施術できるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1・2	〔第1章第1・2節〕 人と感染症・病原微生物 【到達目標】 感染症発見の歴史を人名や業績から学び、人類が感染症とどのように闘ってきたのかを考える。微生物の構造や特徴と、感染症を伝播しない為に必要な知識を理解し説明することができる。				
3・4	〔第2章第2節〕 主な感染症 【到達目標】 空気・飛沫で感染する感染症、飲食物から感染する感染症について理解し、説明することができる。				
5・6	〔第2章第2節〕 主な感染症 【到達目標】 血液等から感染する感染症、動物から感染する感染症について理解し、説明することができる。				
7	〔第1章第1節 感染症の法律・分類〕 【到達目標】 法的分類に分けて、各種感染症について理解し、説明することができる。				
8	確認テスト 「第1章1-2節・第2章第2節」の範囲 理解し身につけているかを確認し、復習する。				確認テスト
9・10	〔第1章第3節〕 感染症の予防 【到達目標】 病原性と人体の感受性の関係を理解する。感染症発生の要因を理解し、感染予防の3原則について説明することができる。				
11・12	〔第2章第1節・第3節〕 美容と感染症 具体的な対策 【到達目標】 美容業の業務の性質を考え、実際に起こりうる感染症に対して予防対策を実施することができる。				
13	確認テスト 「第1章3節・第2章第1・3節」の範囲 理解し身につけているかを確認し、解説により復習する。				確認テスト
14	確認テスト 感染症全範囲を国家試験の出題傾向をもとに、身につけているかを確認し、解説により総復習する。				確認テスト
到達目標	美容の業務を美容師だけに行わせる意味を理解し、感染症を伝播させないために必要な知識を身につけることにより、美容室で衛生上の危害を防止することができる。				
評価方法	①授業への取り組み方 10% ②小テスト 10% ③前期・後期の学科試験 80% なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「衛生管理」、プリント				

学科	美容科	担当教員	工藤		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	美容業務及び関係法規と消毒との関連を理論的に理解し、美容所における清潔の保持と適切な消毒方法を選択出来る知識と技術を身に付け、客や美容師自身を感染症から守る意識を醸成する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の美容所における消毒の実際</li> <li>・消毒の基礎知識と意義</li> <li>・美容業務と消毒との関係</li> </ul> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容業・美容所における消毒の必要性を認識し、消毒の意義・原理・定義を述べるようになる</li> <li>・消毒に関連のある美容師法関係法令を十分理解し、消毒を怠った場合の危険性と責任について述べるようになる</li> </ul>			第4編 第1章 1～3節 P.144～153 小テストあり	
2	○確認問題（汚染・感染・発病の意義、消毒の定義） <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒の種類と消毒に必要な条件</li> <li>・消毒薬・消毒薬使用液の使用、保存上の注意</li> <li>・理学的消毒法と科学的消毒法</li> </ul> <b>【到達目標】</b> 理学的消毒法と科学的消毒法の種類と用途と効果を理解し、適切な消毒方法を選定する目安がわかるようになる			第1章 4節& 第2章 1・2節 P.154～175 小テストあり	
3	○確認問題（理学的消毒法と科学的消毒法の種類と方法） <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐれた消毒法の条件と消毒を行う際の注意事項</li> <li>・各種消毒薬 ・器具の使い方</li> <li>・各種消毒薬希釈法</li> </ul> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒薬の希釈に用いる器具の扱い方を理解し、正しく使用することが出来るようになる。</li> <li>・消毒薬を希釈する際の濃度計算が出来るようになる</li> </ul>			第2章 2節(一部)・ 3節 第3章 1節 P.176～P.192 小テストあり	
4	○確認問題（希釈方法と濃度計算及び使用器具） <ul style="list-style-type: none"> <li>・3の消毒薬の特長と希釈方法の復習</li> <li>・美容所の消毒の実際</li> <li>・美容所の清潔法の実際</li> </ul> <b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容所の消毒設備と消毒物件に適した消毒方の選定と注意点が説明出来るようになる</li> <li>・美容所の清潔保持のために実施すべき消毒法を説明出来るようになる</li> </ul>			第3章 2節 P.193～209 小テストあり	

授業回	学習内容	備考
5	○確認問題（消毒物件別消毒方法、清潔法） ・美容所における衛生管理要領 目的～衛生的取り扱い <b>【到達目標】</b> 衛生管理要領を理解し、具体的な対応と対策を説明することができるようになる	第5編 第1章 1節 P.212～232 小テストあり
6	○確認問題（前回復習） ・美容所における衛生管理要領 消毒～自主的管理体制 <b>【到達目標】</b> ・衛生管理要領を理解し、具体的な対応と対策を説明することができるようになる	第1章 2節 &第2章 P.233～244 小テストあり
7	○確認問題（前回復習） ・第4編 1章～第5編 2章（すべて）の範囲の振り返り <b>【到達目標】</b> ・	第4編・第5編 科目修了模擬試験
8	後期学科試験	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容業における消毒の必要性・重要性を関連法規と連動して理解できる</li> <li>・状況や消毒物件に応じた消毒方法・消毒薬の選定と希釈方法を実践することができる</li> <li>・自身や客への感染症予防の為の衛生措置を理解し、実践することができる</li> </ul>	
評価方法	授業への取り組み方・姿勢 10%、小テスト 20%、科目修了模擬試験 30%、後期学科試験 40% なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。	
テキスト	公益社団法人日本理容美容教育センター（衛生管理）	

学科	美容科	担当教員	松戸		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	人体の解剖（特に胸部～頭部、顔にかけて）構造、仕組み、働きを理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容保健を学ぶ意図を知り、頭部顔部頸部の構成及び名称について学ぶ				
2	骨の構造と働き、名称について学ぶ				
3	筋の構造と働き、名称について学ぶ				
4	神経の構成と人間の働き、感覚器との関連を学ぶ				
5	感覚器系の種類と特徴及び疾患について学ぶ				
6	血液、循環器の名称と働き、リンパの役割について学ぶ				
7	呼吸器系の名称及び仕組み、疾患について学ぶ				
8	消化器系の仕組みと名称役割を学ぶ				
到達目標	人体の解剖（特に胸部～頭部、顔にかけて）構造、仕組み、働き及びそれに係る専門用語の理解ができる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、定期的実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪健康管理ができる深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	第1章 皮膚の構造			偶数回に確認テスト	
3・4	第2章 皮膚付属器官の構造-1			同上	
5・6	第2章 皮膚付属器官の構造-2			同上	
7・8	第3章 皮膚の循環系と神経系			同上	
9・10	第4章 皮膚と付属器官の生理機能-1			同上	
11・12	第4章 皮膚と付属器官の生理機能-2 第5章 皮膚と付属器官の保健-1			同上	
13・14	第5章 皮膚と付属器官の保健-2			同上	
15	皮膚科学に関する前期試験			定期試験	
16・17	第5章 皮膚と付属器官の保健-3			偶数回に確認テスト	
18・19	第5章 皮膚と付属器官の保健-4			同上	
20・21	第6章 皮膚付属器官の疾患-1			同上	
22・23	第6章 皮膚付属器官の疾患-2			同上	
24・25	第6章 皮膚付属器官の疾患-3			同上	
26・27	第6章 皮膚付属器官の疾患-4			同上	
28・29	第6章 皮膚付属器官の疾患-5			同上	
30	皮膚科学に関する後期試験			定期試験	
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。但し、所定授業時間数(全体の2/3)を下回る学生は受験できない。				
テキスト	保健 (日本理容美容教育センター)				

学科	美容科	担当教員	村松尚子		
科目名	化粧品化学	学年	1年	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	30
教育目標・ねらい	美容師として必要な化粧品化学の専門知識を習得し、提案力を身につける。				
授業回	学習内容				備考
1	<p>ガイダンス</p> <p>化粧品総論1：化粧品の社会的意義、化粧品の効果と使用プロセス、品質特性</p> <p>[到達目標] ①化粧品化学の学習の対象を明確にし、学習の流れをつかむ。</p> <p>②化粧品の社会的意義、化粧品の効果と使用プロセス、品質特性は何か、問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				
2	<p>化粧品総論2：化粧品の法規制、化粧品の安全性と安定性</p> <p>化粧品原料1：コロイド溶液の基礎、</p> <p>[到達目標] ①化粧品の法規制、安定・安全性の必要性と問題は何か。</p> <p>②コロイド溶液の種類、乳化の状態はどのようなものか。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				
3	<p>化粧品原料2：界面活性剤の基本性質、界面活性剤の種類と応用</p> <p>[到達目標] ①界面活性剤の基本性質、種類は何か。</p> <p>②界面活性剤は化粧品にどんな使われ方をするか。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p> <p>③界面活性剤のまとめとして小テストを実施し、自身の習熟度を知る。</p>				小テスト実施
4	<p>化粧品原料3：化粧品の成り立ち、水性原料および無機化学の基礎概略</p> <p>[到達目標] ①化粧品の種類と機能の概略は何か。</p> <p>②無機化学の基礎概略を知り、アルコールの種類と性質について説明できる。</p> <p>③水性原料の種類と性質は何か。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				
5	<p>化粧品原料4：油性原料（油脂、ロウ類、炭化水素）および有機化学の基礎概略</p> <p>[到達目標] ①有機化学の基礎概略を知り、エステルについて説明できる。</p> <p>②油脂・ロウ類・炭化水素の種類と性質、機能は何か。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				
6	<p>化粧品原料5：その他の油性原料と機能、高分子化合物</p> <p>[到達目標] ①高級脂肪酸、高級アルコール、脂肪酸エステル、シリコンの性質、機能は何か。</p> <p>②高分子化合物の種類は何か、どのような使われ方か。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				小テスト実施
7	<p>ヘアケア製品：シャンプー・リンス・トリートメント剤、試験対策</p> <p>[到達目標] ①シャンプー・リンス・トリートメント剤の種類・機能・原料は何か、</p> <p>②シャンプー・リンス剤の成分から界面活性剤を区別できる。</p> <p>③水性・油性原料の小テストで自身の習熟度を知る。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				
8	<p>化粧品原料6：色材、香料、製品を安定させる配合原料</p> <p>[到達目標] ①色材の種類は何か、どのような使われ方をするか。</p> <p>②香料の種類は何か、どのような使われ方をするか。</p> <p>③製品を安定させる配合原料の種類と機能は何か。</p> <p>以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>				



9	<p>化粧品原料7：機能性配合原料、雑貨原料 ヘアメイクアップ製品1：ヘアスタイリング剤1</p> <p>[到達目標] ①製品の安定させる配合原料、機能性配合原料の種類と機能は何か。 ②スタイリング剤の種類、機能と原料は何か。 以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。 ③小テストで自身の習熟度を知る。</p>	小テスト実施
10	<p>ヘアメイクアップ製品2：スタイリング剤2、パーマ剤</p> <p>[到達目標] ①スタイリング剤の種類、機能と原料は何か。 ②パーマ剤の種類、機能は何か、どのような原理か。 以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>	
11	<p>ヘアメイクアップ製品3：ヘアカラー剤、スカルプケア製品</p> <p>[到達目標] ①ヘアカラーの種類と機能、原理と原料は何か。 ②スカルプケア製品の種類と機能、原料は何か。 以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。 ③パーマ・ヘアカラーと小テストで自身の習熟度を知る。</p>	小テスト実施
12	<p>スキンケア製品1：化粧品の作用と効果、クレンジング用化粧品 コンディショニング用化粧品（化粧水、クリーム・乳液）</p> <p>[到達目標] ①化粧品の作用と効果（モイスマチャー効果）、スキンケアの役割とは何か。 ②クレンジング用化粧品の種類と性質は何か。 ③コンディショニング用化粧品の作用と種類、機能は何か。 以上を問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>	
13	<p>スキンケア製品2：トリートメント用化粧品1（機能性化粧水と化粧液、サンケア、美白他）</p> <p>[到達目標] トリートメント用化粧品の種類と機能は何か、 問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得し、説明できる。</p>	
14	<p>メイクアップ製品：ファンデーション・口紅・アイライナー他、試験対策</p> <p>[到達目標] メイクアップ製品の種類と機能、原料は何か、知識を整理習得し、説明できる。</p>	
到達目標	化粧品の機能と原料を理解し、適切に「お客様へ提案」するための基礎知識を得る。特に、オリジナルシャンプーの成分を明確に理解し、学ぶ姿勢を養う。	
評価方法	前期・後期の筆記試験(100点満点)で評価する。尚、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することが出来ない。	
テキスト	日本理容美容教育センター編：化粧品化学	
特記事項		

学科	美容科	担当教員	今野		
科目名	文化論	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	7
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章：総論 第2章：日本の理容業・美容業の歴史				
2	第3章：ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ 近代（明治・大正・昭和20年まで）				
3	第4章：ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ、近世、現代				
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を知り、美の成り立ちやあり方を理解する				
評価方法	期末筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）、配布プリント				

学科	美容科	担当教員	高橋（み）・齋藤		
科目名	文化論（美容色彩学）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	23
教育目標・ ねらい	サロンワークに必要な色彩とカラーテクニックの基礎を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	<b>色のはたらき・光と色</b> 【到達目標】身近な色彩、色はなぜ見えるのかを学ぶ				
2	<b>光と色</b> 【到達目標】色の三属性（色相・明度・彩度）、PCCS色相環を学び、色の仕組みを理解する				
3	<b>色の三属性・PCCS（色相環）</b> 【到達目標】色の三属性（色相・明度・彩度）、PCCS色相環を学び、色の仕組みを理解する				
4	<b>PCCS（色相環・トーン）</b> 【到達目標】色の三属性（色相・明度・彩度）、PCCS色相環・トーンを学び、色の仕組みを理解する				
5	<b>PCCS（色相環・トーン）</b> 【到達目標】色の三属性（色相・明度・彩度）、PCCS色相環・トーンを学び、色の仕組みを理解する				
6	<b>色をつくる（色相環・トーン）</b> 【到達目標】パステルを使用した基本的な色の作り方を学び、自分がねらった色みを表現できるようになる				
7	<b>色をつくる（応用）</b> 【到達目標】色みをイメージして、自分がねらった色みを表現できるようになる				
8	<b>色彩心理学</b> 【到達目標】色が与える心理的影響により、どのように見え方が変化するかを理解する				
9	<b>色彩調和</b> 【到達目標】色の基本的な配色方法を学び、色彩調和を理解する				
10	<b>色彩調和</b> 【到達目標】色の基本的な配色方法を学び、色彩調和を理解する				
11	<b>配色イメージ</b> 【到達目標】色の組み合わせによって与える影響を学び、イメージとは何かを理解する				
到達目標	美容師に必要な色彩の知識・色彩検定3級の知識を身につける				
評価方法	提出課題及び定期試験により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	配布プリント				

学科	美容科	担当教員	倉留		
科目名	運営管理	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	経営者の視点を理解し、自身のキャリアデザイン又は職業に就く意義を見出させる。社会保障制度の概要を把握させ、社会人となる準備及び国家試験筆記試験に必要な知識の基礎を形成する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	グループワークによって仮想の店舗を作り上げる。 【到達目標】経営者として留意しなければならない点を説明できる。 「経営者の視点」 【到達目標】経営が必要な理由として、変化や責任について説明できる。			教科書 P12～21	
2	「美容業界の概要と現状」 【到達目標】理・美容業の変遷と現状を説明できる。 「資金管理」 【到達目標】会計に関わる用語と考え方を理解し、売上と利益とコストの関係について説明できる			教科書 P24～31 教科書 P32～39	
3	「税金について」&ここまでの復習小テスト 【到達目標】税金の分類と罰則の税金を説明できる。 「給与」「待遇」「労働者の権利」 【到達目標】労働三法を理解し、説明できる			教科書 P44～46 教科書 P56～61	
4	「健康管理」「健康・安全な職場環境の実現」 【到達目標】労働安全衛生法の概要を説明できる。 「ここまでの内容中テスト」「解説と復習」 【到達目標】経営者が整えるべき労働環境を説明できる。			教科書 P56～61	
5	「公的年金」 【到達目標】国民年金と厚生年金の違いを説明できる。 「医療保険」 【到達目標】各医療保険の対象者と概要を説明できる。			教科書 P66～69 教科書 P70～73	
6	「労働保険」 【到達目標】雇用保険、労働者災害補償保険の概要を説明できる。 「社会保険小テスト」 【到達目標】社会保険制度の射程を説明できる。			教科書 P74～77	
7	「国家試験重要項目復習」 【到達目標】国家試験における出題傾向と各社会保険の概要と給付等を説明できる。				
8	筆記試験 /運営管理の全体像を説明できる。				
到達目標	運営管理の全体像を説明できる。国家試験の重要項目を正しく把握し、その項目及び概要を説明できる。各社会保険について当事者意識を持って、制度の概要や給付の詳細について説明できる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。また、授業中間に実施する小テストの成績も評価に加味する				
テキスト	運営管理（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	学ぶにあたって、用具理論/美容技術に必要な基本的知識や用具類の役割および名称を理解する				
2	シャンプー/シャンプー技術に入るにあたって、シャンプーの必要性、技術工程、注意事項を理解する。				
3	ヘアカッティング/ヘアカッティング用のシザーの種類、用途、カット技法、ベーシックなスタイルと作成方法を理解する。				
4	エステティック/エステティックの目的、基本的な技法、皮膚科学や化粧品使用時の注意事項を理解する。				
5	ネイル技術/ネイル技術に必要な用具類とテーブルセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。				
6	<b>学期末試験</b> /これまでの知識をペーパーテストにて測定する（100点満点中60点合格）				
7	ヘアデザイン/デザインを考えるにあたって、錯視の取り入れ方を中心にデザイン作成の基本的な考え方を修得する。				
8	パーマメントウェービング/パーマメントウェービングの仕組み、薬剤の種類と使用方法および注意事項、パーマメントウェービングのデザインと技術工程を理解する。				
9	ヘアセッティング/ヘアセッティングに必要な用具類とテーブルセッティング、各技術の種類と技術工程、デザインの種類を理解する。				
10	ヘアカラーリング/染毛剤の種類、染毛の仕組み、塗布方法、薬剤の注意事項とパッチテスト方法を理解する。				
11	メイクアップ/メイクアップ技術に必要な用具類とテーブルセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。				
12	日本髪、着付けの理論と技術/日本髪の種類と歴史、日本髪の基本的な技術工程と用具類の名称と使用方法、着物の種類と歴史、着付けの基本的な技術工程と帯むずびの種類を理解。				
13	<b>学期末試験</b> /これまでの知識をペーパーテストにて測定する（100点満点中60点合格）				
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置や各美容技術の基本知識を十分理解する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	19
教育目標・ ねらい	毛髪化学を理解し、毛髪の診断やそれに対する処置の仕方、アドバイスをする為の知識技能を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアケアマイスター「3つの説明責任」・第1章1.毛髪の構造と働き・2.タンパク質とは/3つの説明責任の理解をし、毛髪の構造、タンパク質の理解ができる				
2	第1章3.pHと毛髪の4つの結合・4.毛髪のダメージの原因・5.毛髪のダメージのプロセス/4つの結合を理解し、毛髪のダメージとは何か理解ができる				
3	第2章1.毛髪のカウンセリングに対して、・2.お客様の悩みを聞く・3.現状の毛髪の状態を見極める・4.髪質を見極める・5.くせ毛について/1～5で学んだ事を習得し、相モデルでカウンセリングができる				
4	第2章6.髪質と施術時間を関係・7.毛髪のダメージレベル・8.技術プロセスにおける前・後処理の目的・9.毛髪の健康な状態・10.毛髪の健康診断方法 毛髪のデータ/6～10の知識を習得し、毛髪の診断方法を理解できる				
5	第3章1.界面活性剤について・2.シャンプー剤の成分と働き、効果・3.トリートメント剤の成分と働き、効果/界面活性剤とシャンプー剤トリートメント剤の知識を習得し、成分と種類を理解できる				
6	第3章4.スタイリング剤の成分と働き、効果・5.ホームケアアドバイス・○ヘアケア剤Q&A/スタイリング剤の知識を習得、ホームケアを相モデルでアドバイスできる				
7	第1章問題/第1章の知識が理解できる				
8	第2章問題/第2章の知識が理解できる				
9	第3章問題/第3章の知識が理解できる				
10	ヘアケアマイスタープライマリー模擬筆記試験/ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
到達目標	ヘアケアマイスタープライマリー検定の知識を習得し、毛髪科学の理解ができ相モデルで実践ができる				
評価方法	模擬筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ヘアケアマイスターブック第4版：日本ヘアケアマイスター協会出版				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	17
教育目標・ ねらい	ヘアケアマイスタープライマリーコースの検定の知識を基にお客様の毛髪診断、それに対する処置、アドバイスを為知識技能を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	はじめに・第1章毛髪化学編 復習・問題/第1章の復習をし再度理解できる				
2	第2章毛髪のカウンセリング編 復習・問題/第2章の復習をし再度理解できる				
3	第3章ヘアケア剤編復習・問題/第3章の復習をし再度理解できる				
4	ヘアケアマイスタープライマリー過去問題 /ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
5	ヘアケアマイスタープライマリー過去問題 /ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
6	ヘアケアマイスタープライマリー過去問題 /ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
7	ヘアケアマイスタープライマリー過去問題 /ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
8	ヘアケアマイスタープライマリー模擬筆記試験 /ヘアケアマイスタープライマリーの知識が理解でき、合格点を取ることができる				
到達目標	ヘアケアマイスタープライマリーコースに合格し、美容師としてカウンセリングできる能力を身に付ける				
評価方法	ヘアケアマイスタープライマリーコース検定試験(合否)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ヘアケアマイスターブック第4版：日本ヘアケアマイスター協会出版				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (カット〔セイムレングス〕)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	頭部の形状を理解させ、頭皮に対して直角に毛髪を引き出せるようにする。施術面の高さや向きに応じて、正しい作業姿勢をとれるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1・2	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習 /頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。			延べ4時間	
3～6	セイムレングス手順説明・練習 /正確な毛髪引き出しによって同じ長さで切ることができる。			12	
7・8	刈り上げ〔坊主〕によるセイムレングスカット /基本的なコーム・シザーワークを行うことができる。			16	
9～12	セイムレングス一連手順練習 /1回のシェーブでオンベースに引き出すことができる。			20	
13～17	セイムレングス一連タイム入れ /時間を意識して繰り返しオンベースに引き出すことができる。			24	
18	セイムレングス実技試験 /定められた時間内にセイムレングスカットができる。			26	
19・20	カットウィッグ創作、撮影 /身につけた技術を想像通りに表現することができる。			30	
到達目標	頭部の形状を理解したうえで、その形状に沿ったカットができる。セイムレングスカットの表現を理解し、創作するスタイルに取り入れることができる。 美容科DP②・③、CPⅢ～Ⅴに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				



学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (カット〔グラデーション〕)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	カットにおけるステムとカットラインの変化による表現の違いを理解させる。カットの基本的な技法を理解させ、スタイルに取り入れる想像をさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	開閉とブロッキング練習、パネルの角度とシルエットの説明 /ステムとスタイルの関係を説明できる。			延べ2時間	
2・3	ローグラデーションカットの手順説明・練習 /ステムによるシルエットの差を理解する。			6	
4	ローグラデーションの一連の工程 /目的に応じたステムにパネルを引き出すことができる。			8	
5・6	ラウンドグラデーションカットの手順説明・練習 /グラデーションの角度のつけかたを理解する。			12	
7	ラウンドグラデーションカットの一連の工程 /リフトアップ・ダウン各々の目的を説明できる。			14	
8・9	サイドグラデーションカットの手順説明・練習 /グラデーションにおける各テクニックを施すことができる。			①リフティング 18 ②横スライス ③縦スライス ④斜めスライス	
10	サイドグラデーションカットの一連の工程 /仕上がりを意識してグラデーションカットができる。			20	
11	サイドグラデーションウィッグのブロー手順説明・練習 /仕上がりを意識してブローすることができる。チェックができる。			22	
12～14	サイドグラデーションカット&ブロータイム入れ練習 /仕上がりを想像してカット・ブローができ、時間内に仕上げられる。			28	
15	【実技試験】サイドグラデーションカット&ブロー /目標となるスタイルに対して意図した技術を施すことができる。			30	
到達目標	基礎となるカット技法を理解するとともに、表現や目的に応じたテクニックを理解している。仕上がりを想像し、カット技法の選択、ブローによる仕上げができる。 美容科DP②・③、CPⅢ,Ⅳに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (カット〔ワンレングス〕)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	美容技術・用具についての基礎知識を習得したうえで、基本的なカット技術を的確に施術できるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	カット技法、シザーズの構造、使用後の手入れを説明、開閉練習 /技法毎の特徴を理解する。シザーズカットの仕組みが説明できる。			延べ2時間	
2~4	開閉練習、ブロッキング、インサイドカット、手入れ /シザーズの持ち方と開閉を習得し、毛髪を適切に扱うことができる。			8	
5	開閉テスト、ブロッキングテスト、ワンレングスの切り方 /習得した技術を使用して実際に毛髪をカットすることができる。			10	
6	ワンレングスの切り方説明・練習 /シザーズを使って正確なカットをすることができる。			12	
7	全頭ワンレングスカット、ハンドブロー、ラップブロー /ワンレングスカットの手順を説明できる。			14	
8	ハーフラウンドブラシの使い方説明・練習、ブロー /ブラシの使い方、風の使い方を理解する。			16	
9	全頭ブロー、チェックカット /仕上がりからカット、ブローの問題点を判断できる。			18	
10~13	全頭カット、ブロー、チェックカット、タイム入れ /定められた時間内に全工程を施術し、修正することができる。			36	
14・15	ワンレングステスト(カット30分ブロー30分)、筆記試験 /定められた時間の中で技術と知識を発揮・説明することができる。			40	
到達目標	基本的なシザーズの取り扱いを理解し、カットによる毛髪の変化をブローを加えることで表現することができる。ならびに仕上がりから問題点を判別し、適切な修正ができる。 美容科DP②・③、CPⅢ,Ⅳに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)と筆記試験(100点満点)の平均で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (カット〔メンズスタイル〕)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	38
教育目標・ ねらい	性別による毛髪の質の違い、留意点を理解させ、表現の幅を広げる。強さやシャープさという表現のための技法を身につけさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	性別により求められる表現の違い、頭部の形状の特徴 /性別ごとにベースとなるスタイル、頭部の形状の違いを説明できる。			延べ2時間	
2	ワンレングス、グラデーションカットのおさらい /基礎となるカットング技法の特徴を理解する。			4	
3	セニング、ポインティング、スライドカットの確認・練習 /スタイルを表現するためのカットング技法を理解する。			6	
4	レイヤー、セიმレングスカットのおさらい /基礎となるカットング技法を理解する。			8	
5・6	セニング、ポインティング、スライドカットでのスタイル表現 /習得したカットング技法を使用し、スタイルを表現できる。			12	
7・8	ツーブロック、ブロースタイリング /ツーブロックの特徴を理解し、スタイリングができる。			16	
9・10	ソフトモヒカン、坊主、ブロースタイリング /毛髪の長さによるスタイルの変化を理解し、スタイリングができる。			20	
11・12	試験スタイルの展示・練習 /身についたカットング技法を用いて、任意のスタイルを表現できる。			24	
13～15	試験スタイルのタイム入れ練習 /定められた時間内に正確なカットング技法を用いることができる。			30	
16	メンズスタイル試験 /定められた時間内に正確なカットング技法を用いることができる。			32	
17	デザインシート作成 /身につけた技術から独自のスタイルを創造することができる。			34	
18～19	デザインシートを基にスタイル作成 /自身で想像したスタイルを創り出すことができる。			38 各クラス映えるもの を選出→インスタ	
到達目標	自信の持っている技術や技法からどのような表現が可能か想像することができる。また、想像したスタイルを実際に作品として表現することができる。 美容科DP②・③、CPⅢ～Ⅴに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)と筆記試験(100点満点)の平均で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (パーマ〔オールパーパス〕)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	100
教育目標・ ねらい	ワインディング技術を通して、頭部の各ブロックの特徴を理解させる。頭部と技術者の体の適切な位置関係を理解させる。コームの基本的な動作を身につけさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	ワインディング理論、ウィッグ・コーム等を使用しながら確認 /基礎となる理論を理解し、作業の想像ができる			延べ2時間	
2	コームワーク、ブロッキング /コームを用いて任意に毛髪の分けとりができる			4	
3~5	ブロッキング、ウィッグカット /カットを通して各部のステムやスライス を理解し、作業に適した長さ・角度で毛髪を切ることができる			10	
6~8	ブロッキング、上巻き展示・練習 /ワインディング技術における注意点を説明できる			16	
9~13	ブロッキングタイム入れ、上巻き、下巻き展示、練習 /基礎となる上・下巻きを適切に行うことができる			26	
14~17	ブロッキングタイム入れ、センター巻き練習 /定められた時間内に正確な分け取りができる			34	
18~21	1本1分巻き、センタータイム入れ /定められた時間内に上・下巻きを正確に行うことができる			42	
22	25分センター試験 /定められた時間内に毛髪の分け取りからワインディング 作業までを正確に行うことができる			44	
23~28	左右バックサイド・サイド展示、練習 /頭の丸みを理解し、ロッドをオンベースに巻き収めることができる			56	
29~31	全頭巻き方確認、練習 /各ブロックの特徴を理解したうえで、左右対称に全頭巻きを収めること ができる			62	
32~49	全頭50分→30分タイム入れ、基礎練習 /全頭巻き収める工程、仕上がりから不足している技術を判断できる			98 授業回数とともに設定 タイムを短く	
50	全頭30分試験(ブロッキング3分でとった後) /定められた時間内に全頭巻き収めることができる			100 全頭30分	
到達目標	頭部の形状を理解し、頭皮に対して任意の角度に毛髪を分け取り引き上げることが できる。基礎となるワインディング技術を習得し、頭部の各部において複数径のロッドを正 確に巻き収めることができる。 美容科DP②・③、CPⅢ,Ⅳに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は 受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力 となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (セット〔夜会巻き〕)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	セット技術における用具類の取り扱い方、セット剤の種類と用途、スタイル作成に必要な基礎的知識技能を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ウィッグの洗い方を通して、道具を丁寧に使う意味を知ることができる 作業しやすい道具配置から、お客様を意識したテーブルセッティングができる			延べ2時間	
2	夜会巻きを上手に作るための仕込みの大切さを理解する ワックスの量から塗布の仕方・ドライヤーによる癖づけ・ホットカーラの使い方がわかる			4	
3	夜会巻きを上手に作るための仕込みの大切さを理解する ワックスの量から塗布の仕方・ドライヤーによる癖づけ・ホットカーラの使い方ができる			6	
4・5	③の復習 すき毛の作り方、つけ方、ピンの使い方、逆毛の立て方ができる			10 ここまでの工程が仕込み試験のチェックとなることを伝える	
6・7	仕込みまで35分でタイム入ることができる 夜会巻きねじり上げの仕方ができる			14 ・コームの使い方 ・ピンの使い方 ・姿勢もチェック	
8	仕込み35分&夜会巻きねじり上げのチェック15分			16 ・コームの使い方 ・ピンの使い方 ・姿勢もチェック 《仕上がり審査》	
9	夜会巻き上半分（逆毛のたて方、すき毛の付け方、ピンの止め方） 覚えて制作できる			18	
10	仕込みから夜会巻き1体完成させる タイムに入れることができる（仕込み30分、仕上げ30分）			20	
授業回	学習内容			備 考	
11~13	・タイム入ることができる（仕込み25分、仕上げ25分） ・タイムに入れることができる（仕込み25分、仕上げ20分）			26 進み具合をみてタイム 入れの進行 (⑩には仕込み20分、 仕上げ20分)	
14	模擬試験（仕込み25分、仕上げ20分）セット試験準備			28	
15~17	セット試験（仕込み25分、仕上げ20分）			34	
18~20	・コテの使い方を覚える（リバース、フォワード） ・コテを使った作品を作れるようになる ・人頭でセットが出来る			40	

到達目標	用具類の取り扱い方、セット剤の種類と用途を理解し、夜会巻きスタイル作成に必要な面構成の基礎的知識技能を修得する。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (サイドシャンプー)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	顧客との距離感を掴み、正しい作業姿勢を身につけることで故障を予防させる。顧客それぞれの毛髪や頭部の形状の違いを理解させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	用具の説明、タオル・クロスの掛け方、ブラッシング説明・練習 /顧客との距離感を理解し、正しい作業姿勢をとることができる。			延べ2時間	
2	ブラッシング、マッサージ説明・練習(相モデル) /顧客に力加減を確認し、最適化することができる。			4	
3・4	復習、教室にてウィッグを使用してシャンプー手順を説明・練習 /頭部の形状や手技の種類を理解する。			8	
5・6	実習室の使用方法和注意、ご案内、ブラッシング、プレーンリンス /設備の使用方法を理解し、安全に使用することができる。			12	
7・8	ご案内、ブラッシング、プレーンリンス、ワンシャンプー /毛髪を十分に濡らし、シャンプー前の処理ができる。			16	
9・10	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ /シャンプーによって十分に汚れを落とすことができる。			20	
11・12	ご案内～ワンシャンプー～マッサージ通し練習 /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。			24	
13・14	ワンシャンプーテスト /施術の一連の手順を理解し、施すことができる。			28	
15	筆記試験			30	
到達目標	作業に適した姿勢や、頭部の形状に対する手技等と理解し、説明できる。各技術の目的を説明でき、それに沿って施術をすることができる。 美容科DP①・②・⑤、CPⅠ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅶに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)及び学科試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (サイドシャンプー)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	シャンプー技術の意義を理解し、施術前後の毛髪と頭皮の状態の変化を想定させる。基本的な技術とともに、他の技術の前後処理としての技術を理解させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	前期復習、前後処理の種類、シャンプーの目的・意義の確認 /他の技術の関連、施術の意義を説明できる。			延べ2時間	
2・3	前期復習(ご案内～ワンシャンプー～マッサージ) /改めて顧客との適切な距離や姿勢、その意義を確認する。			6	
4・5	ツーシャンプー手順説明・練習 /各シャンプーの目的の違いを説明できる。			10	
6・7	ご案内～ツーシャンプー～マッサージ練習 /適切な手順で施術ができる。			14	
8～13	ツーシャンプー連タイム入れ /定められた時間内手順通りに施術できる。			26	
14・15	ツーシャンプーテスト /定められ時間内に適切な施術ができる。			30	
到達目標	シャンプーと他の技術や薬剤との関連を理解し、前後処理としての役割を説明できる。各シャンプーの目的の違いを意識して、施術することができる。 美容科DP①・②・⑤、CP I,III,IV,VIIに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				



学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (メイクアップ)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	各目的に合わせたメイクアップを理解させ、顔の特徴に合わせて施術できるようにする。 道具を表現の違いに合わせて使用し、似合わせを意識させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	メイクアップ理論、道具の説明、手入れの仕方 /メイクの目的と関わる要素について説明できる。			延べ2時間	
2	スキンケア手順説明・練習(相モデル) /スキンケアの各工程の目的を説明できる。			4 教科書P86～88	
3・4	ベースメイク手順説明・練習(相モデル) /ファンデーションの種類と色を目的に応じて選択することができる。			8 教科書P88～95	
5・6	アイ・アイブロウ・リップメイク手順説明・練習(相モデル) /各部位の変化による印象の変化を認識する。			12 教科書P95～103	
7	まつ毛エクステンション理論、装着練習 /まつ毛の特徴、技術上の留意点を説明できる。			14 教科書P104～111	
8～13	スキンケア、ベース、各部メイク仕上げ(目標題材)タイム入れ /定められた時間内にメイクアップを完成することができる。			26	
14	実技試験 /定められた時間内に必要な施術を終えることができる。			28	
14～16	テーマ「※開催日1週間前に発表」デザイン決め、練習、撮影 /テーマに合わせて技術を選択し表現できる。			32 作品撮りとして撮る 為、服装も準備	
17～20	フリーテーマ、デザイン決め、練習、撮影 /自身で完成形を想像し、過程を組み立てることができる。			40 作品撮りとして撮る 為、服装も準備	
到達目標	メイクの目的、メイクに関わる複数の要素を説明できる。さらに、顔の特徴に対して目的 のメイクを叶えるための技術や道具の選択が適切に行える。 美容科DP②・④、CPⅢ～Ⅴに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は 受験することができない ※各撮影後、各学生のインスタグラムで投稿。複数点公式インスタグラムで掲載				
テキスト	「美容技術理論2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力 となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (ネイル)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	手指及び爪周辺健康と美しさを保つための技術と知識を身につける。顧客に触れる部分であることから常に衛生状態への関心を高めさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	[導入]教材配布、事前準備、ケア手順説明(座学) /テーブルセッティングの配置の意義を説明できる。			延べ2時間	
2	ケア手順説明、手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング /爪の形状5種を理解し、任意の形状に施術できる。			4	
3	前回内容、キューティクルクリーン、キューティクルプッシュ /処置すべき部位とそうでない部位を見分けることができる。			6	
4	ケア一連確認しながら施術 /施術上の留意点を認識し、一連の手順を理解する。			8	
5	ケア一連(30分) /定められた時間の中で、一連の手順を施術することができる。			10	
6	カラーリング手順説明、カラーリング練習 /手指の構造から、正しい手順でポリッシュ塗布を行うことができる。			12	
7	油分除去、カラーリング /爪甲部に過不足なくポリッシュ塗布を行うことができる。			14	
8	カラーリング練習(30分) /定められた時間の中で爪甲部の8割以上に塗布ができる。			16	
9	ケア・カラーリング一連(60分) /定められた時間内に正しい手順で施術を行うことができる。			18	
10	ケア・カラーリング一連(60分) /定められた時間内に正しい手順で施術を行うことができる。			20	
11・12	《試験》 ネイルチェック60分(相モデルA・B)・筆記試験 /施術上の留意点、正しい手順の理解を確認する。			24	
到達目標	手指及び爪周辺の構造を理解し、ネイルケア施術の意義を説明できる。ならびに、ネイルケア施術の手順を理解し、説明及び施術を十分(8割以上)に行うことができる。 美容科DP①・②・④、CPⅠ,Ⅲ～Ⅴ,Ⅶに該当				
評価方法	実技試験(ABC評価)ならびに筆記試験(100点満点)で総合的に評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (ヘアカラーリング)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	基礎的な毛髪知識に加え、各種染毛剤の及ぼす影響を理解し、毛髪を任意の色に変化させるための薬剤や手順等を自ら考えられるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1	毛髪の構造、染毛剤・料の種類、毛質による染色の違いの説明 /染毛のメカニズムを説明することができる。			延べ2時間	
2	グレイカラーの塗布手順の説明・練習 /白髪の特徴から塗布手順の意義を説明できる。			4 トレーニングクリームを使用	
3	リタッチ、トーンダウンの塗布手順の説明・練習 /リタッチ、トーンダウン時の留意点について説明できる。			6 〃	
4	トーンアップ、マニキュアの塗布手順の説明・練習 /トーンアップ、マニキュア塗布の留意点について説明できる。			8 〃	
5	ウィッグ全頭ブリーチ /薬剤の反応を確認する。塗布量、薬剤の配合による変化を理解する。			10 ブリーチ剤使用 4ブロックで時間、 2剤の倍率を変更	
6	《チェック》 第5回授業で使用したウィッグを全頭同トーンにする。 /薬剤の反応を想定し、適切な施術ができる。			12	
到達目標	各染毛剤・料の性質を理解し、毛髪の状態や希望する色調に対して適切な薬剤を想定することができる。ならびに施術手順に関しても意義をもって考えることができる。 美容科DP②・③・⑤、CPⅢ～Ⅴ,Ⅶに該当				
評価方法	仕上がり・手順・薬剤選定の3項目から総合的に判断し、4段階評価(A～D)にて評価する。 なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (展示授業)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	現場スタイリストによるエッジのきいた技術の見学を通して、美容サロンで働けることへの喜びを感じてもらう。この憧れを実現するためにはビジネスマナー（美容師の心構え）や基礎技術が不可欠であることを理解し、今後の学校生活・授業がかけがえのないものであることを理解してもらう				
授業回	学習内容				備 考
1	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション（美容師の心構え）/各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる				
2	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション（詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について）/各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる				
3	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション（詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について）/各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる				
到達目標	自身のキャリアプランを示すことができるようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各サロンHP、SNS、雑誌等各種資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (展示授業)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	美容サロンで活躍しているスタイリストの技術デモンストレーション見学を通して、様々なサロンのコンセプトや運営形態の違い、技術の応用を学び、自身が働いてみたいサロンや美容師としてのロールモデルを見つける				
授業回	学習内容				備 考
1	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション（詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について）/各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる				
2	サロンスタイルのデモンストレーション、パネルディスカッション（詳しい仕事内容や得意施術、生活感や働き方について）/各サロンの特性を知りキャリアプランとして個人の選択肢にできる				
3	就職活動の仕方、サロンの探し方や選び方について学ぶ/サロン事の特徴や基本情報の見方を理解する。				
到達目標	自身のキャリアプランを示すことができるようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各サロンHP、SNS、雑誌等各種資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (美翔祭)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	これまで学んだ美容技術とビジネスマナーの来場者への提供⇔評価のサイクルを実際に体験することで、自己の技術とコンピテンシーの到達点を客観的に評価する				
授業回	学習内容			備 考	
1～6	出展内容の企画・立案/これまで学んだ美容技術をどこまで提供できるか、各自が案を出し合いプレゼンテーションをおこなう			延べ12時間	
7～9	出展ブースで提供する技術の復習に始まり、相モデルでチェックしながらお客様へ提供できる品質まで技術を高める			18	
10～12	出展ブースの運営			24	
到達目標	来場者への技術提供ができる				
評価方法	来場者からのフィードバック結果に基づく自己評価と担任との面談結果により評価する。 なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	美容実習 (実務実習)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	自らの進路目標を早期に明確化し、進路目標の設定に伴って、教科科目に対する学習意欲を喚起する				
授業回	学習内容			備 考	
1	サロンワークにおける基本的な実務の理解と、学内において学んだ美容技術をどの様に実践するかを学ぶ / 美容技術を実践する。また、現場を構成する人間関係の中に身を置き、異なる年齢や立場の違うスタッフとのコミュニケーション能力を高めることの意義を理解する			延べ60時間	
到達目標	現場経験を通じた自己理解の深化と、自己の職業適性や将来設計について考え、主体的に進路を選択できる力の養成				
評価方法	実務実習要項の到達目標の評価(5段階)とサロン指導者の評価(5段階)の平均で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	実務実習要項、ビジネスマナーテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	美容美術（絵画法とデッサン）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	デッサンを通して描画力・表現力・集中力・持続力を身につける。				
授業回	学習内容			備 考	
1, 2	ヘアデザイン画4				
3, 4	ヘアデザイン画5				
5, 6	ヘアデザイン画6 完成～鑑賞				
7, 8	人物クロッキー クロッキー（速写）を何枚も描くことで、人物の全身像をよく観察し、全体のバランスを捉える力を養います。クラスメイトをモデルに、15枚前後のクロッキーを描きます				
9, 10	コラージュ技法を使ってイメージを固める！ 新聞や雑誌の記事を切り貼りする「コラージュ」技法を用い、各々が持つ/理想とする世界観を視覚的にまとめます。最終的に人物の全身（ヘア・メイク・ファッション）とその背景を一枚の紙面に表現します。 第一回では、資料を見ながらヘアデザインやそれに合わせた全身のスケッチをします				
11, 12	コラージュ技法を使ってイメージを固める2 第二回目では前回のスケッチをより明確なものにし描画します。また、適した切り抜きを用意、描画した画面上に構成します				
13, 14	コラージュ技法を使ってイメージを固める3 完成～鑑賞 第三回目では前回から引き続き制作のち、最後の時間でお互いの作品の鑑賞をします。作品にはタイトルとコンセプトを添え、イメージを言葉にすることも経験します				
15	絵具を使った絵画法 絵の具を使って色彩のある描写の練習をします。絵の具の使い方によって表現方法や伝わるイメージが変化することを学びます				
到達目標	観察力・表現力を身につけ高める。一つの作品に長い時間をかけて取り組み、持続性のある集中力を身につける。人体がどのように構成されているのか、描画を通して理解する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	随時用意				



学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（話し方論）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	どんな職業に就いても、社会人として必要なビジネス知識やマナーをワークブックにまとめながら覚える。学ぶ順：言葉づかい→電話応対 ジョブパス検定3級合格を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1	社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイント。 【到達目標】 言葉づかいで人間関係が変わるという意味を知る			ワークブック 小テスト①	
2	好感もたれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の復習） 【到達目標】 敬語の文法を再確認し、日常会話で使えるようになる			ワークブック 小テスト②	
3	敬語の練習問題 【到達目標】 様々なケースを練習して社会人としてふさわしい言葉遣いができるようになる			ワークブック 小テスト③	
4	電話応対のマナーと配慮するポイント。 【到達目標】 職場での電話応対がスムーズにできるよう基本的な流れを理解する			ワークブック 小テスト④	
5	電話の受け方 【到達目標】 様々なケースで練習し、会話の流れや言葉づかいを学び、読みやすいメモが書けるようになる			ワークブック 小テスト⑤	
6	電話のかけ方 【到達目標】 かけ方のポイントと基本的な言葉遣いができるようになる			ワークブック 小テスト⑥	
7	電話のかけ方 【到達目標】 様々なケースで練習し、電話を通して言いたいことが適切に言えるようになる			ワークブック 小テスト⑦	
到達目標	ビジネス会話、電話応対の知識とスキルをワークブックにまとめながら覚え、実践できる同僚、上司、お客様との会話や電話応対がストレスなくスムーズにできる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）と提出課題により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	ビジネスマナーワークブック				

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールの書き方を通して、ビジネス実務を身につける。新聞記事のトピックを説明し時事用語、ビジネス関連常識を増やす。				
授業回	学習内容			備 考	
1	PCの活用方法と組織図作成 【到達目標】 PCと周辺機器について理解する。企業の組織図を作成して役職名や責任を知る			ワークブック 小テスト①- 1	
2	ビジネス文書の受発信の流れと、表記法について 【到達目標】 表記法に則った数字の書き方でビジネス文書が作成できる			ワークブック 小テスト①	
3	商取引上の文書の種類について 【到達目標】 稟議書など帳票と印鑑、デジタル化される文書の活用ができる			ワークブック 小テスト②	
4	社内、社外文書について 【到達目標】 相違点と注意ポイントをまとめ、相手に合わせた表現で文書が書ける			ワークブック 小テスト③	
5	文書構成のまとめと社交文書について 【到達目標】 さまざまな社交文書の書き方と日本人ならではの表現ができる			ワークブック 小テスト④	
6	グラフ・メールの作成について 【到達目標】 エクセルで適切なグラフが作成できる。ビジネスメールが書ける			ワークブック 小テスト⑤	
7	新聞記事の読み方について 【到達目標】 ビジネスで使用頻度の高い漢字が書ける。Web.3.0の世界がわかる			ワークブック 小テストの復習	
到達目標	ビジネス文書の取り扱い、社内、社外、のメールが作成できる。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）と提出課題により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	ビジネスマナーワークブック				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる目配り・気配り・心配りの意義を深く理解する。 また相手の立場に立って行動出来るよう自己理解を深める。各種技法の意味を理解し自己改善を図る ことで主体的に実践出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】 職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネスマナー テキストP.1～2	
2	自己分析 【到達目標】 自分の強みや特徴を把握し、自分を客観的に見ることが出来る			ワークシート	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】 良質な人間関係を築くために基本マナーを知る。			ビジネスマナー テキストP.4.7～8	
4	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】 良質な人間関係を築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネスマナー テキストP.4.7～8	
5	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】 『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネスマナー テキストP.9～13	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】 職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネスマナー テキストP.51～54	
7	宿泊オリエンテーション 【到達目標】 コミュニケーション能力を習得し、円滑に対人関係を結ぶ				
8	宿泊オリエンテーション 【到達目標】 人から信頼される為に、主体的に物事を考え行動に移す				
9	オリエンテーション振り返り			ワークシート グループワーク	
10	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人として言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキストP.3.17～24	
11	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】 職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキストP.3.17～24	
12	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキストP.5～6	
13	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 【到達目標】 『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキストP.5～6	

授業回	学習内容	備考
14	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。	ビジネスマナー テキストP.5～6
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」 【到達目標】守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。	ビジネスマナー テキスト P.55～56.68～69
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキストP.25～40
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキストP.25～40
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応①「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト P.41～49.70～71
19	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応②「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト P.41～49.70～71
20	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.56～67
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.56～67
22	実務実習の振り返り	ワークシート グループワーク
23	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキストP.64～67
到達目標	職業人を目指すうえで、学んだ知識・技術そして心構えを実践し、相手からの信頼を得られることが出来る。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	美容科	担当教員	菅野		
科目名	高度総合美容技術理論 (美容英会話)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンのシチュエーションで、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 自己紹介 20 minutes, Unit 1 - Dates and Times 基本的な挨拶、時間、曜日、日付の会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 2 - Greeting a client 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	Warm Up - 5minutes, Unit 4 - Chatting with a client 出身地、天気、趣味等のやりとり Unit 5 - Shampooing シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	Warm Up - 5minutes, Unit 6 - Counselling 頭部のボキャブラリ ・ お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 6				
5	Warm Up - 5minutes, Unit 7 - Cutting 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	English for Beauty Salons				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	高総合美容技術理論 (ヘアデザイン論)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	5
教育目標・ ねらい	ヘアデザインを作成するための基礎知識を修得し、今後のヘアスタイル作成に役立てる				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアデザインの読み解き方/写真を見てヘアデザインの構成を理解する				
2	ヘアデザインの作り方、展開図/学校が指定したヘアデザインを展開図におこす				
3	ヘアデザインの作り方、展開図/自身で指定したヘアデザインを展開図におこす				
到達目標	ヘアデザインの読み解きができ展開図に書き起こすことができるようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	プリント配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	高度総合美容技術実習 (匠すと)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	18
教育目標・ ねらい	匠すと（校内コンテスト）の各競技内容に合わせて、美容技術理論の基礎および技術内容の理解をすることが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	匠すとの競技内容の理解と実施計画の作成 /各自が出場する競技内容が全て説明でき、当日までの計画を作成する				
2～6	各競技ごとにおいて仕込みを行う /計画に基づいた仕込みができています				
7～12	各競技ごとにおいて本番を想定したタイム入れ /競技規定に沿った作品を仕上げることができています				
13～18	【匠すと（校内コンテスト）】 /各競技規定に則り作品を完成させる				
到達目標	1年次に修得した技術を用いて、各競技ごとに応用力を発揮することができるようになる 美容科DP②・③、CPⅢ,Ⅳに該当				
評価方法	課題提出（競技内容によって提出内容は異なる）により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	And Green		
科目名	高度総合美容技術実習 (化粧品製造と実験)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	国家試験の意識と現場でも必要な知識を化粧品製造を通して学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	【ヘアシャンプーの製造】 基本となる高級アルコール系界面活性剤を配合したヘアシャンプーの製造。配合成分や製造方法の解説、実際に製造を行い洗浄剤に対しての知識を深める シャンプーの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
2	【アミノ酸系ヘアシャンプーの製造】 高級アルコール系界面活性剤を使用したヘアシャンプーとの違いや髪質により使い分けができるよう処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行い洗浄剤に対しての知識を深める シャンプーの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
3	【ヘアトリートメントミルクの製造】 ヘアトリートメントミルクの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いトリートメント剤に対しての知識を深める。 ヘアトリートメントの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する				
到達目標	高級アルコール系とアミノ酸系シャンプーの成分による使用感や髪質による相性の違い、界面活性剤の違いによりトリートメントとの作用機序の違いを理解し、製造できる。				
評価方法	所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品化学：日本理容美容教育センター</li> <li>・授業毎にプリント（処方）</li> </ul>				



学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口・境		
科目名	高度総合美容技術実習 (トータルビューティコース)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアメイクやトータルビューティージェルを美容師の教養として学び、ネイルの知識、技術を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	各種用具の名称および使用方法、検定要項の確認と理解 /検定に必要な情報の理解				
2・3	美容実習で修得した「ネイルケア」技術の復習を相モデルで行う /ネイルケアが一通り実施できる				
4～6	ジェルネイル基礎 /テーブルセッティングの配置と消毒管理について説明できる				
7～8	ネイルケア～ジェルネイル/ネイルケア一連(35分タイム入れ)、ジェルネイル 手指消毒、ジェルネイル塗布について理解ができる				
9	学科対策/ネイルに関する基礎知識(爪の構造、爪のトラブル)を理解することができる				
10・11	ネイルケア～ジェルネイル/ジェルネイルアート(初級課題ピーコック)のアート を理解し、描くことができる				
12	学科対策/ネイルに関する基礎知識(衛生と消毒)を理解することができる				
13・14	ネイルケア～ジェルネイル/定められた時間内の中で一連の流れを理解することができる				
15	学科対策/ジェルネイルに関する基礎知識を理解することができる				
16・17	ネイルケア～ジェルネイル/定められた時間内に正しい手順に沿って塗布することができる				
18	学科対策/検定試験初級当日の流れに合わせ、ネイルの基礎知識(衛生と消毒)、 ジェルネイルに関する知識が理解できる				
19～21	模擬試験/検定試験初級当日の流れに合わせ、時間内に正しい施術を行うことができる				
22～24	【JNAジェルネイル検定試験 初級】/ネイルケアのベーシックとジェルネイルを 施術するための必要な基礎知識と技術ができる				
25～27	ジェルアート/基礎知識を活かした応用技術の習得、デザインが作れる(ピー コック応用、グラデーション、フレンチネイル)				
28～30	ジェルアート/基礎知識を活かした応用技術の習得、デザインが作れる (チェック柄、ツイード柄、ニットネイル、ミラーネイル)				
到達目標	ジェルネイルの基礎知識、技術を身に付け、ジェルネイルアートの基本的テクニックを修得する。				
評価方法	検定実技試験、ジェルネイルアート作品制作 なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	JNAテクニカルシステム(ジェルネイル)、模擬学科プリント配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、 即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見・岡田・藤野・野口		
科目名	高度総合美容技術実習 (ヘアデザインコース)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアデザイン制作に必要な展開図の知識、それを再現するためのカット、ブロースタイリングの技術を修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	サロンスタイル①・展開図(ワンレングス～ローグラデーション) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる			延べ6時間	
4～6	サロンスタイル②・展開図(ローグラデーション 質感調整&ブロー) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、ブロースタイリングができるようになる			12	
7～9	ダイアグラム①(ワンレングススタイル) /ダイアグラムの書き方を理解し指定スタイルを仕上げる事ができる			18	
10～12	サロンスタイル③・展開図(前下がりグラデーション ベースカット) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる			24	
13～15	ダイアグラム②(グラデーションスタイル) /ダイアグラムの書き方を理解し指定スタイルを仕上げる事ができる			30	
16～18	サロンスタイル④・展開図(前下がりグラデーション 質感調整&ブロー) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、ブロースタイリングができるようになる			36	
19～21	ジオメトリック・カット①・展開図(カット&ブロー 匠すと競技作品) /指定スタイルを展開図に書き起こしカットができる			42	
22・23	ジオメトリック・カット②・展開図(ブロー&スタイリング 匠すと競技作品) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、ブロースタイリングができるようになる			46	
24	カラーリング(部分ブリーチ塗布、ウェービング) /指定スタイルのカラーリングができるようになる			48	
25	カラーリング(オンカラー ヘアマニュキア) /指定スタイルのカラーリングができるようになる			50	
26・27	ジオメトリック・カット③・展開図(ブロー&スタイリング 匠すと競技作品) /指定スタイルのセニングの入れ方、ドライカット、ブロースタイリングができるようになる			54	
28～30	作品制作、発表(プレゼンテーション)、写真撮影/これまで学んだ技術を用いて作品制作をし、プレゼンテーションをすることができる。			60	
到達目標	スタイルの読み解き、展開図の作成、カットブロースタイリング技術を用いてそれらを再現する力が身についている。				
評価方法	作品提出とプレゼンテーションにより100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	技術テキスト(プリント)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				